

命を繋ぐ税金

鶴岡市立鶴岡第五中学校3年 鈴木 朝

「税金は大切」「税金は私達の生活・命を繋ぐ」私がそう思ったのは、税について勉強して、作文書がなくちゃいけないんだよね。と母に話したところ、とても身近に、税金のおかげで助かる命の話をしてくれました。今までは、「消費税がなかったから、お小遣いでこれ買えるのに！」なんて思ってたのに、その話を聞いた私は、感謝しかない！そう思えたのです。

平成二十三年十月二十八日、私の妹は山形県立中央病院で生まれました。体重六百二十四グラム、身長三十センチの超低体重児としてこの世に生を受けました。生まれるはずの予定日は、二月十一日だったので、四か月近くも早く産まれてきたのでした。私が、保育園の年長で小学校に入る前の準備で、一日小学校体験をしていた日でした。「朝、お母さんが山形の病院に運ばれたって。」私はびっくりして、泣きそうになりながら、いつもは長く感じる山形までの道のりも、あっという間だったのを覚えています。母が救急車で運ばれてから五日後、小さな体でこの世に誕生したのでした。誰にも抱っこされることもないまま、病院のNICUという救急救命センターの特別な保育器の中で過ごし、妹の生まれた体重での生存率は、六十パーセントから七十パーセントと言われているようで、様々な治療・手術をしなければならなくなりました。全てが発達しないまま誕生したため、まず未熟児動脈管開存症を治すために、心臓の手術をしました。それから、未熟児網膜症の治療でレーザー手術をしました。手術は成功しました。これから成長するにつれて、何も発症しなければ大丈夫と告げられたそうです。そこで、手術と特別な保育器での生活、両親は行く前に全ての説明を聞いたことを話してくれました。「来は一千万以上の手術と治療を受けたんだけど、三千円しか払わなくてよかったんだよ。それは、特別小さく産まれた子供には、県・国からの負担で、まさに税金で補助してもらえたんだよ。もしも、税金がなかったら…来は、助からなかったかもしれないね。一千万以上なんて、すぐに準備できるお金でもないし、そのお金が準備できなかったら、妹の来の命は、数日しかなかったかもしれないね。」私は、その話を聞いて、何だか涙が出そうになりました。目の前にいる、元気で時にはケンカして腹が立つ六歳離れた妹が、あの日、手術ができなかったらと思うと心が締め付けられそうになりました。

消費税が十パーセントになって、もちろん日本国民は反対の人も多いと思います。でも、税金は、東日本大震災やコロナウィルスによる一人十万円の補助金等様々なことに税金が使われています。現に私の妹もみんなに助けられたのだから。だから、私は大人になって税金を払う立場になったら、妹のように助かる命を繋ぐため。困っている人達のために使ってもらおうんだ！と思える大人になりたいです。